

羽州莊内湯濱温泉圖  
同所温泉由来記

板元 白沢藤左門

湯濱温泉由来記

天喜年中湯の濱村の漁父濱辺にいづ、そこをさぐると  
かめい小砂の中不黒き水のあり是まて山石あり所  
おもあふむと不審におもひ近くよりて見れば大智  
亀の疵をうけいとよまうしむさむふて砂一腹をつけ  
てそといふもあをありり不漁父ふしむふたむい  
よく見ればこの亀のちりり所の砂の中不水氣  
あり手をさしそころみし小阿ぶしをちりけむいさ  
らハこみ取し温泉いづるをちりこの湯不砂より疵口を

いやさんとさるよと心付き亀を引起しその砂を  
かきのけし温泉をさいでし亀はその傍此湯小  
むら心よげ小見しと持翌朝も濱辺よいで見  
し小昨日亀のをりし所より北の方村にその砂の中  
小右の亀をさし居しとありしとありし湯のいづるを  
よと押し砂をかきのけし小も温泉をさいで  
たり夫より漢父ハ日々濱辺小いで見廻る小その亀  
濱辺の湯小むら心よげし又ハ村にその湯小  
入ることもありしとさし亀の疵口日小まし

ろよく七日目ハ疵口平愈して嬉しげハ海上ありの  
ひさしぬ漢父ハ亀の命をたすけしをよみこむ心いと  
みよふじり酒あしたんやまみたり其夜の夢ハ異形の  
老人来りそいづるハ我ハこの浦の沖ニ年久しくすめ  
ふ亀ありこの頃をのぞむも大船よりおろせし碇ハ  
あさり大疵を得て痛きをぞうしく死おつらんとせ  
しハこの濱ハ温泉あるを見てこそおむらひ疵口平  
愈せしハ全くこの湯の効なり吾こそよよりこの温泉  
の守護神とありて諸人の病苦を除くべしといふと

昔ハ一ハ夢さめたり漢父奇異の思ひをてり村中の  
者へくハハハ物語りせし小比皆々ふしき小井もいさふ  
も温泉場を仕立べしと相談をまきつゝ亀のむじりり  
二の湯を堀り湯壺をとるありろふ村中の病氣  
腫物の者湯治せし小その効を得ざるものあり其事  
遠近よりきこえ入湯のもの年々小ありて入つゝるしを  
當時上の湯下の湯と称するもの其旧跡ありて古来亀の  
湯といへりも此いふれかりとて又漢父が夢の告を以  
て村中申合せ濱辺の岩の上小一字を建て湯藏

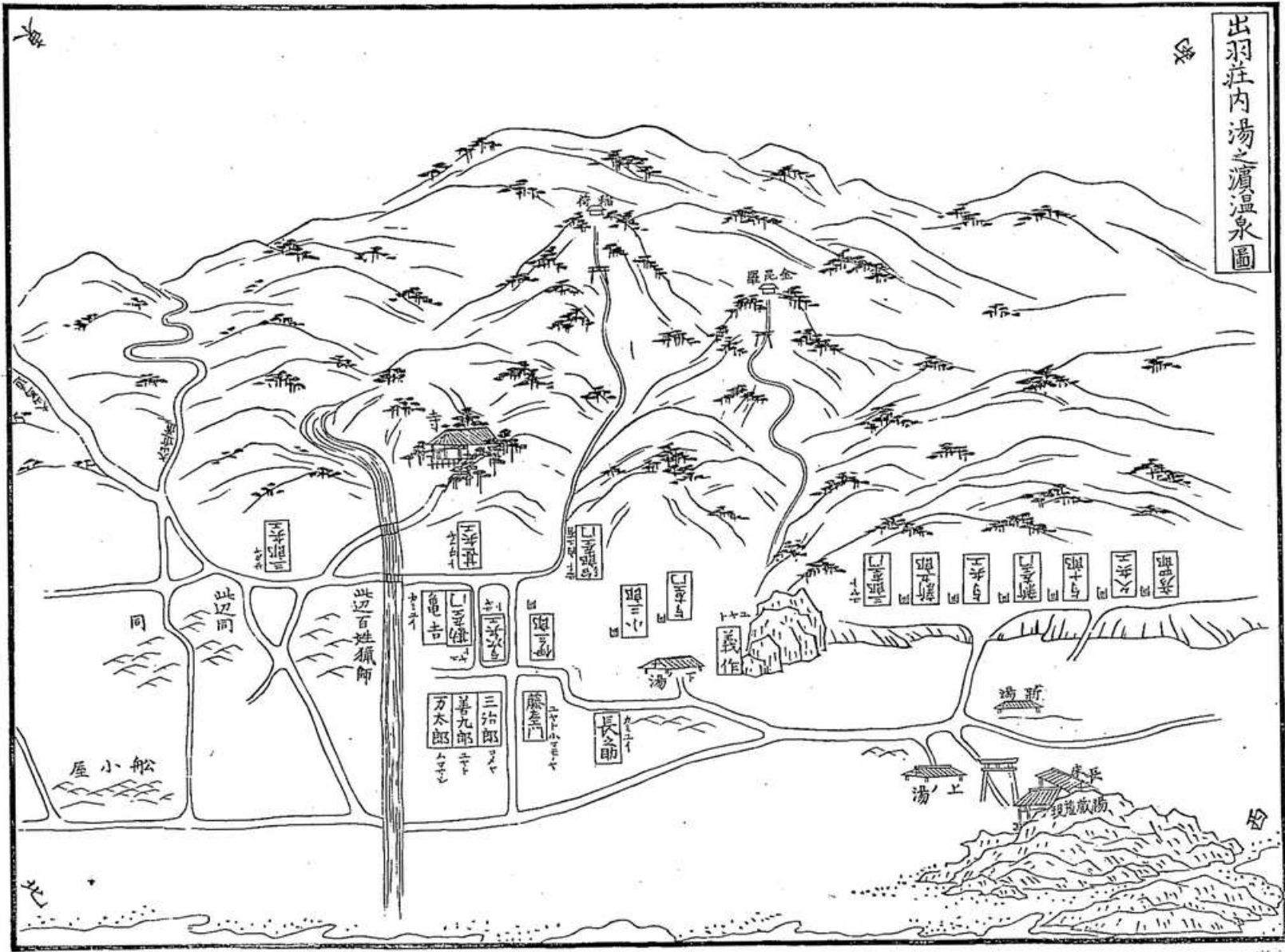
権現とあがみりやまへりりふ雪並験いぢりり益諸病  
平愈りり此社の祭礼ハ四月朔日なり右の亀板口平  
愈り海上に浮きたり一日ある祭の日不定ありといつ  
ふ又堂岩のかけをいり岩の下より湯のいづる所あり  
されどあはる海近き渚の事あり年久しく捨置たり  
弘化三年の春藩士堀氏入湯の時この湯を見て村  
中の者へ指圖いり湯のいづる所を堀り大井をまへ  
其上より石を多くつこのを底樋を以て數十間引上げ  
湯壺をまへ翌年未の秋湯屋普請も成就せり

土人こゝを新湯といふこゝの湯の効上下の湯不異ぢ  
こゝかこゝを全く堀氏の威光あり村悦あり  
古来より上の湯下の湯二ツの和近年新湯いで、三ツ  
の湯となり益湯元の敏原昌とちやゆると云

嘉永五年壬子冬十月

風雲齋識

出羽庄内湯之瀆温泉圖



星

辰

北

辰